

2026年度 修士課程入学試験（秋期）

試験問題〔専門〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

問題A-1～E-8の中から志望研究指導の問題について解答しなさい。

志望研究指導以外の問題を選択した場合や2問以上解答した場合は採点されません。

問題記号	研究領域	ページ
A-1～7	スポーツ文化研究領域	P. 2
B-1～9	スポーツビジネス研究領域	P. 3～4
C-1～17	スポーツ医科学研究領域	P. 5～7
D-1～6	身体運動科学研究領域	P. 8
E-1～8	コーチング科学研究領域	P. 9～10

A. スポーツ文化研究領域

A-1 研究指導名：スポーツ史（石井 昌幸）

英語の“sport”という語が、現在のような意味で用いられるようになるまでの歴史について、知るところを述べよ。

A-2 研究指導名：舞踊論（杉山 千鶴）

山田耕筰（1886-1965、当時は耕作）、石井漠（1886-1962）らが模索した「舞踊詩」について述べよ。

A-3 研究指導名：体育科教育学（吉永 武史）

体育授業における学習の成果を評価する方法について、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から具体的に述べよ。

A-4 研究指導名：スポーツ教授学（深見 英一郎）

フィジカルリテラシーとは何か、またスポーツ教育はフィジカルリテラシーの向上に対してどのように寄与できるかについて考えるところを述べなさい。

A-5 研究指導名：スポーツ社会学（中澤 篤史）

以下の①～③の社会学の学術用語の中から1つを選んだ上で、i) その学術用語の意味を説明し、ii) その学術用語を使って、スポーツに関連する任意の社会現象を論じなさい。

① 権力（Power） ②逸脱（Deviance） ③資本主義（Capitalism）

A-6 研究指導名：スポーツ文化論（川島 浩平）

日本でメジャースポーツとされる競技を一つ取り上げ、その競技がなぜ、いかにメジャーとしての地位を獲得したかを説明しなさい。

A-7 研究指導名：アジアのスポーツと身体文化（高嶋 航）

歴史認識問題がスポーツに及ぼす影響について、具体的な事例を挙げて説明せよ。

B. スポーツビジネス研究領域

B-1 研究指導名：スポーツ経営学（木村 和彦）

一時的な取り組みや流行ではなく、持続可能なスポーツツーリズムを実現していくためには、これからどのような課題について研究することが必要となるか論じなさい。

B-2 研究指導名：健康スポーツ論（中村 好男）

高齢者の生きがい保持の観点から ACP の意義と課題を論ぜよ。

B-3 研究指導名：トップスポーツビジネス論（平田 竹男）

アメリカ型と欧州型のスポーツビジネスの長所、短所、そして、違いを述べよ。

B-4 研究指導名：スポーツ組織論（作野 誠一）

地域住民による地域スポーツクラブの形成プロセスについて説明したうえで、クラブ設立支援のあり方について述べなさい。

B-5 研究指導名：スポーツビジネスマーケティング（松岡 宏高）

スポーツの試合会場に来た観客の満足に関して示された以下の2点について論理的に説明せよ。

- (1) 観客の満足度はどのような場合に高まるのか
- (2) その満足度は試合主催者にとってどのように重要であるのか（あるいは重要でないのか）

B-6 研究指導名：スポーツビジネス法（松本 泰介）

不可抗力で主催者がスポーツイベントを中止せざるを得なくなった場合、主催者と参加者との法的関係はどのようになるか。参加者が支払った参加料の取扱いを中心に述べなさい。

B-7 研究指導名：スポーツ&エンターテインメントマネジメント（佐藤 晋太郎）

あなたが考える我が国における企業スポーツの役割について、インナー（企業内）効果とアウトター（企業外）効果のどちらかを選び、科学的に検証するための研究デザインを自由に考えて説明してください。実現可能性は問いません。

B-8 研究指導名：スポーツプロモーション論（高橋 義雄）

改正スポーツ基本法が2025年6月13日に参院本会議で賛成多数で可決、成立した。今回の改正の背景とともに、改正の内容を述べよ。

B－9 研究指導名：スポーツ経営戦略（大井 義洋）

近年、スポーツ界においては経営の持続可能性がかつてないほど重要視されています。競技団体やスポーツチームが長期的に成長を遂げていくためには、単なる勝敗や人気に依存するのではなく、戦略的な経営視点が不可欠です。そこでスポーツの競技団体やチームが持続的な発展を実現するためには、どのような経営戦略が必要だと考えますか。差別化、収益構造の多様化、地域密着などの視点を踏まえ、具体的な事例を交えて、あなたの考えを論じてください。

C. スポーツ医科学研究領域

C-1 研究指導名：運動免疫学（赤間 高雄）

上気道感染症の罹患しやすさと運動との関係を説明しなさい。

C-2 研究指導名：健康行動科学（岡 浩一朗）

成人における身体活動不足や座りすぎの実態について解説し、それらががんの罹患や死亡に及ぼす影響について、知るところを述べよ。

C-3 研究指導名：スポーツ整形外科学（金岡 恒治）

アスリートの腰椎伸展運動の繰り返しによって発生する腰部障害の病態を知る限り提示し、それらの共通の対処方法について述べよ。

C-4 研究指導名：予防医学（鈴木 克彦）

サルコペニア（sarcopenia）に関して、その特徴、機序および予防対策について知るところを述べよ。

C-5 研究指導名：アスレティックトレーニング（広瀬 統一）

競技現場における疲労回復のための戦略設計を念頭に置きつつ、以下の5つの視点のうち3つを選び、それぞれについて①理論的背景、②具体的な実践手法とその効果を記述しなさい。必要に応じて、対象者の条件（年齢・競技種目・回復期間）や先行研究に言及してもよい。

- ① 生理的アプローチ
- ② 神経学的アプローチ
- ③ 心理的アプローチ
- ④ 行動学的アプローチ
- ⑤ 社会学的アプローチ

C-6 研究指導名：筋生物学（秋本 崇之）

骨格筋のティッシュエンジニアリングに利用されている材料についてその物理・化学的性質を含めて記述せよ。

C-7 研究指導名：運動代謝学（宮下 政司）

定期的な身体活動の実践が食欲に与える影響について、述べよ。

C-8 研究指導名：運動器スポーツ機能解剖学（熊井 司）

人体の構造の中で腱・靭帯が骨に付着している部分は解剖学的にエンテシス（enthesis）と呼ばれ、様々なスポーツ障害が発生する。膝蓋骨下極の膝蓋腱付着部にみられる障害はジャンパー膝と呼ばれ、その発生にはエンテシスの構造と力学的負荷が大きく関与していることが分かっている。この部位における障害の病態と治療・予防法について、以下のキーワードの中から8個以上用いて解説せよ。

キーワード：線維軟骨組織、オーバーユース、着地動作、微小損傷、膝蓋下脂肪体、MRI、超音波検査、異常血管網、eccentric exercise、体外衝撃波治療

C-9 研究指導名：健康教育学（石井 香織）

日本の子どもの身体活動推進を実現するためにはどのような方策が考えられるか。健康教育学の理論を援用し、具体例を挙げ述べよ。

C-10 研究指導名：スポーツ神経精神医科学（西多 昌規）

ヒトの睡眠は、ノンレム睡眠とレム睡眠という異なる状態を周期的に繰り返すことで構成されています。これらの睡眠段階の生理学的特徴を踏まえ、以下の問いに答えてください。

1. ノンレム睡眠およびレム睡眠の主な特徴と、それぞれの生理的役割について説明してください。ノンレム睡眠については、その各段階（ステージ）に分けて記述すること。
2. 睡眠を評価・測定する代表的な方法について、その概要と、それぞれの利点および限界を述べてください。

C-11 研究指導名：スポーツ疫学（澤田 亨）

「選択バイアス」と「情報バイアス」をそれぞれ説明してください。

C-12 研究指導名：アスレティックパフォーマンス（平山 邦明）

スプリント走の加速やジャンプなど、身体重心の速度を増加させたいとき、身体資源としてどのような筋力特性が求められるか、理由とともに答えよ。また、挙げた筋力特性の強化方法も記せ。

C-13 研究指導名：環境運動生理学（細川 由梨）

イスラエル国防軍が指定する暑熱耐性試験（heat tolerance test）の実施プロトコルは以下のとおりである。

- 環境温度：気温 40 度、相対湿度 40%
- 運動様式：2%の傾斜に設定したトレッドミルで時速 5km
- 運動時間：最大 120 分
- 判定基準：深部体温が 38.5 度以上、心拍数が 150 以上、あるいは、いずれか（または両方）の数値にプラトーがみられない

本プロトコルの限界について、熱収支の観点から述べよ。

C-14 研究指導名：スポーツ生化学・遺伝学（谷澤 薫平）

運動により各臓器から分泌される生理活性物質「エクサカイン」を1つ挙げ、その作用について知るところを述べよ。

C-15 研究指導名：スポーツ生理学（前田 清司）

持久系アスリートにおいて、安静時心拍数が低い理由を説明しなさい。

C-16 研究指導名：応用生理学（宮地 元彦）

エアロビクトレーニングとレジスタンストレーニングに対する骨格筋の適応の違いについて、形態学・生理学・生化学の視点から述べなさい。

C-17 研究指導名：ハイパフォーマンス科学（宮本 直和）

肉離れの受傷リスクには、修正可能な (modifiable) 要因と修正不可能な (non-modifiable) 要因がある。具体的な要因の例を挙げながら両者の違いを説明するとともに、挙げた具体例のエビデンスレベルについて知るところを述べよ。

D. 身体運動科学研究領域

D-1 研究指導名：生体ダイナミクス（川上 泰雄）

筋骨格系の解剖学的構造の構成要素をいくつか挙げ、それらの連関が身体運動を生み出すまでの過程について述べなさい。

D-2 研究指導名：スポーツ心理学（正木 宏明）

プレッシャー下で本来の実力を発揮できない「あがり」を体験しがちなアスリートの性格特性について説明しなさい。そのうえで、このようなアスリートを支援する心理学的方策について述べなさい。

D-3 研究指導名：統合運動神経生理学（宝田 雄大）

以下の2問のいずれかを選択し、その設問に解答しなさい。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

D-4 研究指導名：バイオメカニクス（矢内 利政）

ニュートン・オイラーの運動方程式を定義し、その意味について詳しく説明せよ。また、これを用いて動作解析がなされた先行研究を1編挙げ、この研究で得られた結果と知見について力学原理に基づいて議論せよ。

D-5 研究指導名：スポーツ栄養学（田口 素子）

エネルギーバランスとエネルギーアベイラビリティの違いについて知るところを述べなさい。

D-6 研究指導名：運動生理学（林 直亨）

ヒトの換気量を調節する生理的メカニズムについて説明しなさい。その後、運動に伴う換気量の変化と、それに関連するメカニズムについて知るところを述べなさい。

E. コーチング科学研究領域

E-1 走運動・コーチング科学 (磯 繁雄)

下図は、男子 400H 世界記録樹立者と日本代表選手が走行したスタート(s)から 5 台(5H)までの所要時間を示している。所要時間より 2 名の戦術的な類似点と特異点を示しなさい。そして、日本選手が世界記録保持者と対等な所要時間で走るための要因を考えコーチング計画とその説明の要点を述べよ。

なお、両選手とも後半(5H-ゴール)まで速度低下率は同様とする。

	s-1H	1H-2H	2H-3H	3H-4H	4H-5H	s-5H
世界記録樹立者	5.67	3.53	3.50	3.64	3.70	20.04
日本選手	6.08	3.84	3.93	3.93	4.03	21.81

単位: 秒

E-2 トップスポーツコーチング科学 (奥野 景介)

ハイパフォーマンスを獲得することを想定したアスリートのパスウェイについて、特定の種目を例にして自分の考えを述べなさい。

E-3 スポーツコーチング学 (土屋 純)

運動学習の初期段階にある学習者に対するコーチングの方法について解説しなさい。

E-4 コーチングとこころの科学 (堀野 博幸)

コーチングに携わる際に、「自身のコーチング哲学」が重要となる理由を、コーチング現場での具体例を示して説明してください。

E-5 トレーニング科学 (岡田 純一)

レジスタンストレーニングにおける運動強度に関して、1RM(One Repetition Maximum)の相対値(%1RM)あるいは主観的運動強度(Ratings of Perceived Exertion; RPE)を用いる場合について、それぞれの特徴、長所および短所を説明しなさい。また、パワークリーン(Power clean)運動への適用例について述べなさい。

E-6 チームスポーツコーチング論 (松井 泰二)

技術戦術、戦略の違いを明確に説明をしたうえで、チーム戦術について具体例を示して説明しなさい。具体例を示す際は、競技名や種目を明示しなさい。

E-7 武道のコーチング学 (射手矢 岬)

対人格闘技において、脱力の重要性が問われることがある。脱力の効果を具体例とともに説明しなさい。

E-8 冬季スポーツコーチング学 (藤田 善也)

冬季スポーツの中から1つを選び、パフォーマンスと深く関連する運動技能について説明したうえで、それを測定・評価する具体的な方法、およびそれを習熟させる練習方法について述べよ。

